

消

こんにちは！  
費生活相談室です 82

消費生活相談室 (☎47-1106 FAX44-7957)

◆アドバイス

子供の教育に関して、不安を抱えている親は多いと

◆事例2

電話で、幼児用の英語教材の勧誘を受け契約したが、子供が興味を示さないので解約したい。

◆事例1

訪問販売で、中学生用の学習教材を勧められ、子供がやる気を見せたので契約した。しかし、3年間で使う大量の教材が一度に届けられ、それを見た子供はやる気がすっかりなくなりました。高額な教材であり、解約したい。

学習用教材の契約は慎重に！

◆相談受付時間

毎週月～金曜日  
午前9時～正午・午後1時～4時

確定申告を  
お忘れなく！

確定申告の受付は、3月16日(月)までです。まだお済みでない方は、忘れずに申告しましょう。

問合せ先 税務課市民税係  
(☎47-1016)

み

みんなで拓く人権文化 68

地域振興課人権政策室 (☎47-1102)

安心して話せるか

今から180年前、ある村で作物の出来の悪い年が続きました。農家の中には小作料が払えなくて借金がふくらむ人もいました。地主の農家は村で約束をつくり、「借金を返さない人は耕作をとめる、親戚の畑を借りて耕作してもいけない、借金を返さない人や耕作をとめた人は、だれよりも下の者として扱おう。また、約束に違反した人とはつきあひもしないし、村からは切り捨てる。」と言ひ渡しました。借り家や道具を取り上げられ、食べるものもなくなった人は、同じ村での議論では解決できないので、隣村の人にとりなしてくれるよう頼みました。まともになくてもつれた騒ぎも、やがて解決に向かっていたのですが、そのころはたがいに話し合うことは、とても難しかったようです。

(人権教育推進員 佐賀有道)

このころでは問題に出会ったとき、話し合いや議論によって自分の思ったことがうまく伝わるでしょう。私たちは、「子供の頃からみんなの暮らしについて話す場をもつことが必要ではないか。」と思います。人前で、自分の好きなものや家族のことを話すなど、気軽に話し合う場が必要です。

大人になっても、話し合いや議論によって相手に思いを伝え、ひとを安心させる社会をつくるのが大事だと思います。昔の農村では、同じような感じの人が長い間一緒に住み、言葉ではなく、心を伝えることに頼りすぎ、身近にあるはずの話し合いの場が不足していたのでしよう。

今、子供も大人も安心して話せるか。ひとに対する言動、あなたは大丈夫かという思いで、問題解決に向けて話し合いたいと思います。

今月のサロンコンサート

「フルートデュオの夕べ」

月とき・ところ 3月27日(金)午後7時30分～8時40分

文化ホール(入場無料)

月出演 安倍昌彦、安倍佳衣子、高見恒代

月演奏曲目 フルートソナタ ハ長調(モーツァルト)、ハンガリー田園幻想曲(ドッスラー)、2本のフルートのためのアンタンテとロンド(ドッスラー)

フルート2本とピアノによるクラシック曲を中心としたコンサートをお楽しみください。

(問合せ先 生涯学習課文化体育係 ☎47-1093)



図書館に行こう！

(市民図書館 ☎47-1099)



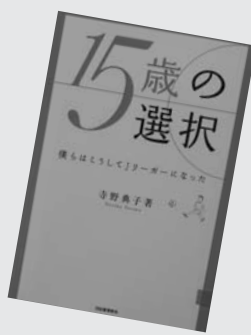
『ももいろのライオン』  
かんとう 関戸富

幼児・小学校低学年。独りぼつちのライオン。森の動物たちはとてもおそろえていたが、本当の姿はだれも知らない。



『千年の時をこえて』  
せんねん とき さわむらりん 沢村凜

小学校中学年・中学生。時を越えて万葉時代から来たという少年マコマと現代少女静枝の謎解きと恋の行方。和歌満載。



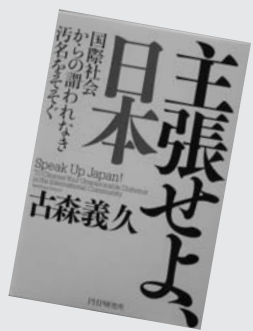
『15歳の選択』  
さいせんたく てらののりこ 寺野典子

中学生以上。「僕らはこうして「Jリーガー」になった」プロ選手を目指した19人の少年の過酷な選択事情の記録。



『宇宙旅行に行こう！』  
うちゅうりょこう い わたなべつみ 渡辺勝巳

小学生以上。宇宙体験のできる科学館。世界中のロケットや宇宙船が大集合している。うーん、なるほどね。



『主張せよ、日本』  
しゅちょう にほん こもりよしひさ 古森義久

高校生以上。日本はなぜもつと明確に、もつと強固に自己主張しないのか。言外の言は通用しないことを知るべき。

今月の新規・寄贈図書

- ◇サラリーマン合気道(箭内道彦) ◆楽しみは(新井満) ◆医学ユーモア辞典(長谷川榮一) ◆浅田真央、17歳(宇都宮直子) ◆限界集落と地域再生(大野晃) ◆壺霊 上・下(内田康夫) ◆ブラックマネー(須田慎一郎) ◆あなたの獣(井上荒野) ◆アイスクリン強し(畠中恵) ◆ほか計268冊

さがいみなと文化財巡り 60

玉栄丸慰霊碑

今年もまた六十四年前に起きた陸軍徴用船「玉栄丸」爆発大事故の日を迎えます。

境町の三分の一が壊滅したこの一大事故は、本格的な都市空襲のなかつた山陰において唯一最大の「戦災」でもあるのです。

昭和二十年四月二十三日、大正町岸壁に停泊中の「玉栄丸」(九三七トン)から火薬荷揚げ作業中、突然の爆発事故が起こり死傷者四百人を超え、被災・焼失地域は十一ヘクタールにも及びました。

度重なる爆発で、境港一帯は大地震の様相で爆発の破片は対岸の森山や遠くは四キロ離れた諸島まで飛んできたといわれます。また、多くの証言は目を覆うような悲惨な光景を伝えています。

しかし、事故当時の時勢からこの事件の全貌は、市民に周知される事なく軍の機密事項として処理され、なおかつ終戦時に軍関係の資料は焼却処分されてしまいました。

昭和二十一年十月に戦災都市に指定され、復興事業が始まります。三十一年境町は市制に移

行、市全域が都市計画区域に指定され、市街区画整理や街路網整備、港湾整備が進められてきました。現在「水木しげるロード」に代表される「緑と文化のまちづくり」が進展したいま、被災当時の跡形を見ることが出来ません。

戦争による尊い犠牲の苦しみ、悲しみは時代とともに風化してきます。しかし、平和はその犠牲の上にあることを忘れてはなりません。

境港市は事故五十周年の平成七年に、大正町の現・しおさい会館前にあつた追悼の碑「永久に安らかに」を、爆発現場近くの(大正町海岸通)に移転し、思いも新たに「玉栄丸慰霊碑」を建てました。

また、謎の多い事件の公的資料を収集して編集した「玉栄丸追悼五十周年誌」を、タイムカプセルに埋納し、追悼を新たにしています。

今年もしのびつつ平和を希求しましょう。



爆風で飛ばされてきた朝日町寄贈鉄片(酒井英さん)



玉栄丸慰霊碑